

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	日本ヒューマンセレモニー専門学校
設置者名	学校法人 鶴嶺学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
商業実務課程	フューネラル学科	夜・通信	196	160	
	エンバーミング学科	夜・通信	182	160	
		夜・通信			
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

学校受付窓口においてファイル保管、だれでも閲覧可能

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	日本ヒューマンセレモニー専門学校
設置者名	学校法人 鶴嶺学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校受付窓口においてファイル保管、だれでも閲覧可能

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	東海大学 教授	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日	最新の高等教育の 情報提供、学園運営 に対する助言
非常勤	杏林大学医学部 名誉教授	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日	最新の高等教育の 情報提供、学園運営 に対する助言
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	日本ヒューマンセレモニー専門学校
設置者名	学校法人 鶴嶺学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程編成委員会の意見等も考慮し、授業計画の修正等が必要な場合には、原則的に授業開始の3カ月前までに授業計画を完成させる。 ・授業計画に関しては、教員室前及び学校受付窓口にてファイル保管し、だれでも閲覧可能な状態としている。 	
授業計画書の公表方法	教員室前及び学校受付窓口にてファイル保管、だれでも閲覧可能。
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
<ul style="list-style-type: none"> ・各科目ごとにシラバスによって定められた方法によって評価する。 ・総合点を100点満点とし、A:100～80点、B:79～70点、C:69～60点、D:59点以下で評価する。D評価に関しては、不合格とし履修を認定しない。(再試験対象) ・各科目の総授業時間に対して、30%以上欠席した者の履修認定はしない。(補講の対象) 	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GPA を採用。 ・GPA 値の算出方法：A評価：3、B評価：2、C評価：1、D評価：0として、各教科の評価点の合計を科目数で除して算出する。 ・GPA 値を成績表に記載するとともに、GPA 値の分布票を掲示する。 	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>教員室前及び学校受付窓口にてファイル保管、だれでも閲覧可能。</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業認定に関しては、教育課程における全科目の修了をもって認定する。 ・資格取得ポイント 20 ポイント以上の取得。 ・教職員による卒業認定会議において認定する。 	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット（学則に記載） https://humanceremony.ac.jp/koukai/ ・学生生活ガイドは、学生配布及び受付窓口にてだれでも閲覧可能。

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	日本ヒューマンセレモニー専門学校
設置者名	学校法人 鶴嶺学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	写しを学校事務所に備え付け、だれでも閲覧可能
収支計算書又は損益計算書	写しを学校事務所に備え付け、だれでも閲覧可能
財産目録	写しを学校事務所に備え付け、だれでも閲覧可能
事業報告書	写しを学校事務所に備え付け、だれでも閲覧可能
監事による監査報告（書）	写しを学校事務所に備え付け、だれでも閲覧可能

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

(1)

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門課程	フューネラル学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1710時間	単位時間 1080/単位	単位時間 420/単位	単位時間 510/単位	単位時間 0/単位	単位時間 0/単位
			単位時間/単位				
生徒総定員 数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
50人		58人	0人	5人	20人	25人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

- ・教育課程編成委員会の意見等も考慮し、授業計画の修正等が必要な場合には、原則的に授業開始の3カ月前までに授業計画を完成させる。
- ・授業計画に関しては、教員室前及び学校受付窓口にてファイル保管し、だれでも閲覧可能な状態としている。

成績評価の基準・方法

（概要）

- ・各科目ごとにシラバスによって定められた方法によって評価する。
- ・総合点を100点満点とし、A:100～80点、B:79～70点、C:69～60点、D:59点以下で評価する。
D評価に関しては、不合格とし履修を認定しない。（再試験対象）
- ・各科目の総授業時間に対して、30%以上欠席した者の履修認定はしない。
（補講の対象）

卒業・進級の認定基準 (概要)
<ul style="list-style-type: none"> 卒業認定に関しては、教育課程における全科目の修了をもって認定する。 資格取得ポイント 20 ポイント以上の取得。 教職員による卒業認定会議において認定する。
学修支援等 (概要)
<ul style="list-style-type: none"> クラス担任制 電話にて、本人及び保護者への日常的な連絡。 本人及び保護者面談の実施 家庭訪問の実施

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
23 人 (100%)	0 人 (0%)	23 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) 葬儀社・葬祭関連事業者			
(就職指導内容) 履歴書の書き方・面接練習・個別相談（面談）			
(主な学修成果（資格・検定等）) 葬祭ディレクター（2級）			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
25 人	2 人	8 %
(中途退学の主な理由) 経済的理由、進路変更、体調不良		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
<ul style="list-style-type: none"> 本人との日常的な面談 複数教職員による声かけ、面談 保護者との情報共有、面談 		

(2)

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門課程	エンバ－シング学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1710時間	単位時間 1080/単位	単位時間 420/単位	単位時間 510/単位	単位時間 0/単位	単位時間 0/単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
50人		22人	0人	5人	20人	25人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

(概要)

- ・教育課程編成委員会の意見等も考慮し、授業計画の修正等が必要な場合には、原則的に授業開始の3カ月前までに授業計画を完成させる。
- ・授業計画に関しては、教員室前及び学校受付窓口にてファイル保管し、だれでも閲覧可能な状態としている。

成績評価の基準・方法

(概要)

- ・各科目ごとにシラバスによって定められた方法によって評価する。
- ・総合点を100点満点とし、A:100～80点、B:79～70点、C:69～60点、D:59点以下で評価する。
- ・D評価に関しては、不合格とし履修を認定しない。(再試験対象)
- ・各科目の総授業時間に対して、30%以上欠席した者の履修認定はしない。(補講の対象)

卒業・進級の認定基準

(概要)

- ・卒業認定に関しては、教育課程における全科目の修了をもって認定する。
- ・資格取得ポイント20ポイント以上の取得。
- ・教職員による卒業認定会議において認定する。

学修支援等

(概要)

- ・クラス担任制
- ・電話にて、本人及び保護者への日常的な連絡。
- ・本人及び保護者面談の実施
- ・家庭訪問の実施

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容) 履歴書の書き方・面接練習・個別相談（面談）			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) <ul style="list-style-type: none"> ・本人との日常的な面談 ・複数教職員による声かけ、面談 ・保護者との情報共有、面談 		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
フューチャル学科	150,000 円	750,000 円	155,000 円	入学検定料 施設費
エンバナーシング学科	150,000 円	750,000 円	255,000 円	入学検定料、施設費 校外実習費
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 自校ホームページに掲載 https://humanceremony.ac.jp/koukai/		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
<p>産業界等のニーズに即した人材育成教育を行うため、企業等の学校関係者より、最新の情報、現場からの有用な意見を得ることが必要である。そのために学校自己評価委員会を立ち上げた。また、その意見をもとに学校関係者評価委員会に反映させている。</p> <p>評価項目について ①教育理念・目標、②学校運営、③教育活動、④学習成果、⑤学生支援、⑥教育環境 ⑦学生の受け入れ募集、⑧財務、⑨法令の遵守、⑩社会貢献・地域貢献の10項目に分類し評価を行っている。</p> <p>学校評価の活用方法 実施時期は学園の決算の終わった毎年6月の時期に年度の各種資料を基に実施する。 学校評価から出た改善提案、各種意見は、学校長の責任の元、各学校の「教務会」、学園全体の幹部会議である「運営会議」、事務担当者の集まる「事務担当者会議」において周知され、運営に活用されている。</p>		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
道塾 慶陽館	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日	教育関係者
有限会社関口造花店	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日	企業関係者 卒業生
NPO法人 トータルライフサポートクラブ	令和2年5月1日～ 令和4年3月31日	企業関係者

学校関係者評価結果の公表方法
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 自校ホームページに掲載 https://humanceremony.ac.jp/koukai/
第三者による学校評価 (任意記載事項)

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://humanceremony.ac.jp
--

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	日本ヒューマンセレモニー専門学校
設置者名	学校法人 鶴嶺学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		一人	0人	一人
内 訳	第Ⅰ区分	一人	0人	
	第Ⅱ区分	0人	0人	
	第Ⅲ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				一人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定		0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)		0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況		0人	0人
「警告」の区分に連続して該当		0人	0人
計		0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間		前半期	0人	後半期	0人
(備考)					

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)		0人	0人
GPA等が下位4分の1		0人	0人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況		0人	0人
計		0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。